

伊勢おはらい町防災プロジェクト

メンバー数：7名 活動場所：伊勢市
実施主体：伊勢おはらい町会議
担当教員：板井 正斉（教育開発センター）
活動年度：H30

- ・伊勢おはらい町避難訓練参加予定 (5日)
- ・伊勢おはらい町防災研究会
「観光客と観光事業者を災害から守るために」
(高松正人氏・JTB総研)参加 (26日)
- ・三重むすび塾
(中日新聞河北新報主催)
防災訓練・座談会参加(1日)
- ・打合せ(22日)
三重むすび塾(中日新聞河北新報主催)防災シンポジウム「3・11東日本大震災の体験を聞く」参加 (30日)
- ・おはらい町防災図上演習WS (27日)
- ・おはらい町防災図上演習WS (12日)
- ・顔合せ・打合せ(22日)

2018



今年度を振り返って

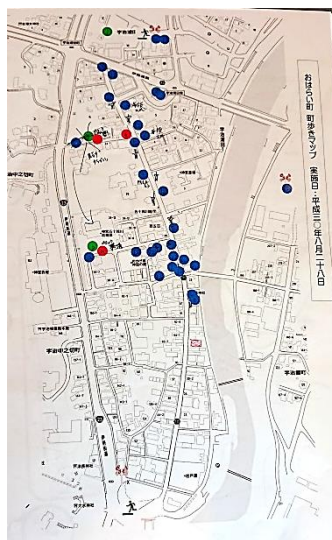
平成30年度より始まった「伊勢おはらい町防災プロジェクト」は、伊勢おはらい町会議が伊勢市と協働で実施している「観光×防災」活動に参画し、そこから生じた課題解決策を調査・ワークショップなどを通して提案します。観光危機管理は、まだ全国でも事例が少ない中で、伊勢おはらい町では、平成22年から先進的に取り組んでいます。

今年度は、「避難訓練参加者増員プラン提案と避難訓練の運営」「おはらい町の「防災情報」「避難誘導情報」など、情報不足を解決するための提案」などの課題について、図上演習(7/12)や現地での防災まちあるき(8/27)を通じて検討しています。図上演習では、発災直後に自分たちがとりうる行動として携帯端末への依存度を議論しました。防災まちあるきでは、観光視点と、防災視点で見えてくる景色や意識の違いを実感しました。また、三重むすび塾(中日新聞・河北新報主催)の防災シンポジウム「3・11東日本大震災の体験を聞く」と防災訓練・座談会(11/30,12/1)へ参加したことで、東日本大震災の教訓を通じた比較もできました。2/26には、「観光危機管理」の研究会に参加して観光客と観光事業者を災害から守ることの重要性を理解しました。3/5に予定されている避難訓練へ向けて、学生の意見も反映しながら参加者増員を目指します。また、今後は観光×防災ならではの平常時の情報発信にも挑戦してみたいと思います。

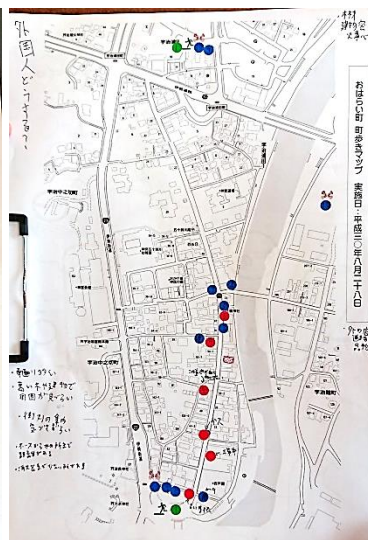
アピールポイント



▲ 図上演習 (7月12日)



▲ まちあるきマップ (浦田側)



▲ まちあるきマップ (内宮側)

皇学館大2年
磯和大智さん(20)

もっと大きい看板を

二見浦は旅行者の歩く道が海に沿っているため、避難誘導する時に海から離れるのが遅くなるのではないかと不安に感じた。旅行者の立場で考えると、避難場所を示す看板は大きくしてほしい。伊勢神宮内宮前のおはらい町で、防災プロジェクトに参加しており、三重むすび塾での経験を生かしたい。



▲ 12/1座談会でのメンバーの発言が掲載(中日新聞12/17)

実施主体の声

初年度の取組としては、図上演習やまちあるき、シンポジウムへの参加などを通じて観光防災への理解を深めてもらえました。次年度以降、より学生の気づきを実践してもらいながら、学びを深めてもらいたいです。